学校番号	111

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂロ	単位数	4(2)単位	年次	３年次
使用教科書	小風秀雅他（著者）「新選　日本史B」　（東京書籍）						
副教材等	星沢卓也（発行者）「日本史のアーカイブ」　（とうほう）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ➢ 中世（室町時代）から江戸時代末期（ペリー来航まで）、第二次世界大戦から現代までの時代を学びます。
- ➢ 歴史という時間軸を感じるため、歴史の流れや時代背景を意識した授業を行います。
- ➢ 歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付こう。
- ➢ 日本史を多面的・多角的に理解するために、世界史・地理との関連を重視します。
- ➢ 生徒の視点での素朴な疑問や生活感覚に即した疑問に主体的に取り組んでいきます。

2　学習の到達目標

- ➢ 現代の社会やその諸課題は、地理的歴史的に形成されたものであることを理解し、歴史的思考力を身につける。
- ➢ これからの国際社会に主体的に生き、平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養う。
- ➢ 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史を学ぶ意義に気付き、日本の歴史全体に対して関心をもって意欲的に追及し、今後の国際社会や日本社会を形成していく自覚をもって考える態度を身につけているか。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	日本の歴史全体に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択でき、歴史を探究する学び方を身につけている。	日本の歴史全体についての基本的な事柄を、地理的条件や世界の歴史との関連付けを一層重視して理解し、その知識を身につけている。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート チェックテスト	定期考査 ワークシート チェックテスト	定期考査 ワークシート チェックテスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	武家社会の形成と生活文化のめばえ	・武家社会の形成と東アジア ・ヨーロッパ文化との接触と国内統一	○ ○	○	○	○	a: 鎌倉幕府滅亡から室町幕府成立、庶民の台頭と下剋上など中世社会の多様な展開に関心をもち、意欲的に追求しようとしている。 b: 中央政権である室町幕府が徐々に弱体化し、中世社会がどのように展開・変貌し今日とのつながりが深い近世社会の特色が現れてきたかを考察・表現できている。 c: 必要な諸資料を収集、分析し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 室町時代や戦国時代の主な特徴や日明貿易など東アジア世界との関係、産業経済の発展武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の特色をよく理解して、その知識を身につけている。	定期考査 チェックテスト ワークシート
	近世社会の形成と	・幕藩体制の成立 ・近世社会の発達と町人文化 ・幕藩体制の動揺と庶民文化	 ○ ○	○ ○	○	 ○	a:幕藩体制の成立から、幕藩体制の変容、江戸時代後半のヨーロッパ諸国の接近と財政難による幕藩体制の動揺期までの時代の流れを俯瞰して、近世社会の展開に関心を	定期考査 チェックテスト ワークシート

2学期	庶民文化の展開	の発達					もち、意欲的に追求しようとしている。 b: 中世から近世社会への変容に伴う政治・社会の動揺や、近代化の基盤の形成過程を国際関係や地理的条件と関わらせて多面的・多角的に考察できている。 c: 必要な諸資料を収集、分析し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:近世国家の成立と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて理解できている。	
	現代の世界と日本	・激動する世界と日本 ・占領と国内改革 ・国際社会への復帰と高度経済成長	 ○ ○	○ ○ 	 ○	○	a:未曽有の被害を出した第二次世界大戦を経て、我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について意欲的に追求し、ＯＤＡやＰＫＯなど、我が国が国際社会において重要な役割を果たし	定期考査 チェックテスト ワークシート レポート

3学期		・石油ショックと低成長の時代 ・新しい国際秩序と日本の課題	○	 ○	 ○	○	てきていること、国民の努力によって豊かさを築き、平和を維持してきたことに気付かせる。 b:戦前・戦中の国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係や世界情勢にも着目して、戦後の経済復興、国民生活や意識の変化について多面的・多角的に考察し、現代社会の特質を明らかにできている。 c: 必要な諸資料を収集、分析し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 第二次世界大戦から戦後日本の歩みを、国際社会の動向と関連付けて考察し、世界の中での日本の立場について理解できている。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。